

Management Club Report

Aug.2020/Vol.212

Monthly Opinion 《人を喜ばすことのできる人財に》

コロナ禍は人間の目にスクリーンを架けて景色を曇らせ、心に猜疑と嫌悪の重りを乗せて沈み込ませています。本来、感染症に対しては人間が手を取り合い一致団結して向かうべきであるにも拘らず、人間の絆を分断し、築き上げてきた社会の安定を歪な形に変えようとしています。

このような現実が既に半年間にも亘って、私たちの生活に影を落とし続けている一方、当初危惧された死亡者数が十万人単位で発生するのではという推測が、未だ千人程度に留まっていることを考えますと、この新しい感染症がもたらす危険性は、感染症そのものよりも、感染症がもたらす社会的影響の方により多く存在しているように思えてなりません。

経済活動を停滞させずに感染症をいかにして克服するのかというテーマは今私たちが最も真剣に考えるべき課題です。その基本はコロナ禍の終息までじっとしているのではなく、危険を極力回避しながら活動を併行させることであり、危険回避に関しての個人々々の対処は、こまめな手洗いと人混みでのマスク着用、そして三密回避に努めることのように、当社におきましてもこれらを日々遵守しながら仕事を行い、僅かではあっても経済活性化へ貢献を心がけています。

しかし、それを“新しい生活様式”とか“With コロナ”などと称しているところに何となくしっくりこない違和感を覚えていることも事実です。これらの表現は、政治家の個人的存在感を高めるための一種のツールとして使われ出した感じが拭えず、何とも釈然としません。そのような些か気取りの入った言葉によって、人間社会に不可欠な血の通った交流が阻害されるとしたなら実に残念でなりません。消毒手洗いや、歯磨きうがいの頻度が高まることは大変に良いことで様々な好結果を生むことでしょう。でもそれは決して新しい生活様式などと大上段に構えて唱えるべきものではないでしょう。三密回避もコロナ禍の終息までの特例措置ではないのですか。まるで世の中が劇的に変化し、これまでの人間社会を一度ご破算にでもするかのような言い回しを声高に叫ぶことが本当に必要なののでしょうか。私は下記のこれまで守ってきた自分なりの免疫力向上策を日々励行し、新しい名案を聞くことがあればそれを加えて行くことにしていますが、それは決して新しい生活様式などと言うべきものではありません。

① 睡眠 ② 栄養 ③ 筋トレ ④ 手洗い ⑤ 歯磨きうがい ⑥ 大笑い

今月は、コロナ禍の中で私たちが大切にしてきた社会や組織の在り方と、そこで暮らし働く人間が、絶対に忘れてはならないコミュニケーションの重要性について考えて参ります。